

えがわがわ
江川川水系河川整備基本方針

平成 15 年 5 月

長 崎 県

江川川水系河川整備基本方針

目 次

1 . 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 -----	1
(1) 江川川流域 ^{えがわがわ} の概要 -----	1
(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 -----	4
1) 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項 -----	4
2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項並びに 河川環境の整備と保全に関する事項 -----	4
3) 河川の維持管理に関する事項 -----	5
2 . 河川の整備の基本となるべき事項 -----	5
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項 ---	5
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項 -----	5
(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に 関する事項 -----	6
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に 関する事項 -----	6

< 参考図 >

江川川水系流域概要図

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 江川川流域の概要

江川川は、長崎市の南部で野母半島の中央に位置し、その源を標高590mの八郎岳^{はちろうだけ}に発して、流域内を南北に走る国道499号と並行するように流れ、途中^{さおのうらがわ}竿浦川や^{おちやがわ}落矢川等の支川と合流して長崎港に注ぐ、流路延長約2.6km、流域面積約6.0km²の二級河川です。流域内には、香焼町の利水専用ダムとして落矢ダムが築造されています。

流域の気候は西海型気候に属し、その特徴として対馬暖流が北上している影響により比較的多雨で、冬は温暖となっています。年平均気温は17程度です。年降水量は1,800mm程度ですが、6月から7月にかけて雨量が多く、梅雨や台風による災害が発生しています。

流域の地形は、約600mの山稜から河川にかけて、ほとんどが急峻であり、河川沿いがわずかな平坦地となっています。

流域の地質は、流域の一部が礫、砂及び粘土の沖積層からなり、それらを除けば、流域のほとんどは野母半島に広く分布する緑色片岩及び黒色片岩(泥質片岩)などの変成岩からなっています。

流域内の土地利用状況は、そのほとんどが山林ですが、下流の河口付近は商業地及び住宅地として利用されており、中流域から上流域にかけては国道や河川沿いに密集した住宅地の中に商店が点在しています。

また、地域住民が自然環境を活かし健康的に利用できるレクリエーション^{なんぶ}の場として、南部運動公園(仮称)の整備が進められています。

流域内の人口は、約7,000人となっています。

江川川の治水・利水・自然環境及び河川利用状況の概要は、以下に示すとおりです。

治水の概要

江川川は、河積が小さいため、過去に幾度となく洪水氾濫を起こしています。昭和 47 年 6 月や昭和 55 年 7 月の豪雨被害を契機に、昭和 56 年度から江川川都市基盤河川整備事業に着手し、現在までに河口から南陽橋付近までの約 1.4km の改修を終えています。

また、近年では昭和 57 年、昭和 60 年及び平成元年に洪水被害を受けており、今後も未改修部分の治水対策を継続していく必要があります。

利水の概要

江川川流域内での本川江川川では、農業用水あるいは水道用水としての河川水の利用はありませんが、支川落矢川の上流では香焼町の水源として、取水が行われています。

自然環境及び河川利用状況

江川川流域においては、その約 8 割が山地から成っており、河川沿いのわずかな平坦地に住宅が密集しています。

江川川がコンクリートによる護岸で整備される以前は、ホタルが多く確認され、昭和 52 年頃まではアユが生息していたと言われています。

江川川は、その河道状況から、感潮区間の下流域と、それ以外を中上流域に区分することができます。

中上流域は、全区間ではないものの河床から河岸にかけてカナムグラやミゾソバが繁茂し、砂礫によって形成された小規模な瀬や淵には、ヨシノボリなどの魚類が生息しており、礫からなる河床は、モクズガニの生息の場となっています。

また、山稜の一部は、タカサゴソウ（絶滅危惧 類：環境省レッドデータブック（以下 環 という。））やキエビネ（絶滅危惧 B 類：環）の生育域となっています。

下流域には植生は多く見られないものの、河岸の一部にはハゼノキ、モチノキ及びネムノキなどの樹木が群生しており、コサギ、アオサギなどの休息の場となっています。また、点々と形成されている砂州や干潮時に現れる干潟はダイサギ（C：長崎市レッドデータブック（以下 市 という。））の良好な餌場となっています。また、カワアナゴ（B1：市）の生息が河口付近の砂泥質の河床で確認されています。

河川利用としては、河川沿いの道路が地域住民の生活道路として利用されています。特に、蛇行する河川沿いに小学校や中学校が隣接する中流域

の太田橋から南陽橋にかけては、通学路として利用されています。

また、全川にわたり河川内へ容易に入ることができる階段や斜路が少ないため、釣りや水遊びのような河川利用はほとんど行われていません。

水質に関しては、公共用水域の類型指定を受けていませんが、平成 13 年 9 月から平成 14 年 1 月に行った 5 回の観測結果では、河口からおよそ 0.9km 地点における BOD の平均値が 2.2 mg / ℓ、河口からおよそ 2.0 km に位置する高野原橋地点における BOD の平均値が 5.1 mg / ℓとなっています。

(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

長崎県では、長期総合計画の中で「地域を支え合う安全・安心な社会づくり」及び「自然環境と人々が共生する社会づくり」を政策に掲げ、安全で快適な生活環境づくりをめざしています。

江川川の整備においても、これらの基本理念に基づき、関連地域の社会・経済の発展に係る諸計画（長崎市第三次総合計画等）との調整を図りながら、水源から河口まで一貫した計画のもとに、河川の総合的な保全と利用を図ります。

またその際、地域へ水文や水質などの河川情報を提供するとともに、河川に対する要望の集約、河川の整備・保全に係る取り組みの促進・支援を行い、地域住民と連携した川づくりを行います。

1) 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

江川川は、想定氾濫区域内の状況等を考慮し、計画規模の降雨により発生する洪水を安全に流下させることのできる整備をめざします。

また、整備途上における施設能力以上の洪水や計画規模を超過する洪水等に対しては、被害を最小限に抑えるために、関係機関と連携して警戒避難及び情報連絡体制の整備等のソフト対策を総合的に実施します。さらに、災害に強い地域づくりのため、土地利用計画との調整を行うなど、流域と一体となった取り組みを推進します。

2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項並びに

河川環境の整備と保全に関する事項

河川水の利用に関しては、地域住民や長崎市等関連する他行政機関との緊密な連携のもとに、流水の正常な機能の維持に努めます。

また、河川環境の整備と保全に関しては、昭和 52 年頃まで確認されていたアユの生息環境の再生、現在江川川流域では少ないとされているホタルを保全するための河川環境の改善に務めるとともに、カワアナゴやヨシノボリを始めとする現在の動植物の生息・生育環境の保全に努めます。

更に、現在整備が進められている南部運動公園（仮称）は、河川環境を活かした整備が行われており、今後の河川整備についても地域住民の憩いの場として、親水性にも配慮した河川の整備を行っていきます。

3) 河川の維持管理に関する事項

河川の維持管理に関しては、災害の発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から適切に行います。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

基本高水のピーク流量は、基準地点^{おおたばし}太田橋において $60\text{m}^3/\text{s}$ と設定し、これを河道に配分します。

基本高水のピーク流量等一覧表

(単位: m^3/s)

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
江川川	おおたばし 太田橋	60	-	60

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

江川川における計画高水流量は、基準地点太田橋において $60\text{m}^3/\text{s}$ とします。



江川川計画流量配分図

- (3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項
 本水系の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は次表のとおりとします。

主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅一覧表

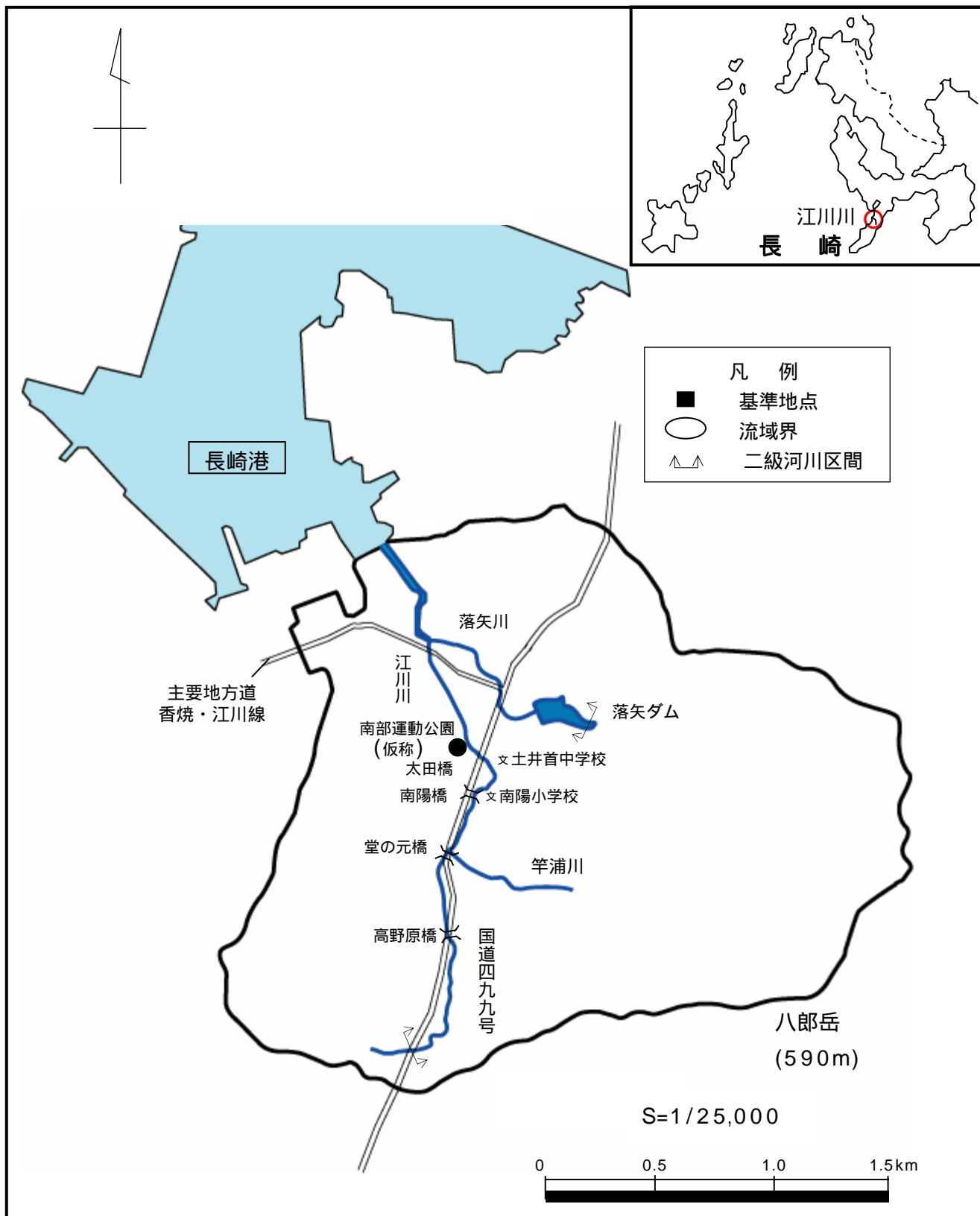
河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 (T.P.m)	川 幅 (m)	摘 要
江川川	おおたばし 太田橋	1.10	+ 7.85	11.0	基準地点

(注 1) T.P. : 東京湾中等潮位

- (4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

本川江川川の河川水は、農業用水及び水道用水としての利用はなく、また近年、河川に著しい影響を与えるような洪水被害はないことから、ある程度良好な河川環境が保たれています。

流水の正常な機能を維持するために必要な流量に関しては、今後、流量データの蓄積などの実態把握等に関する調査検討を行います。



江川川水系流域概要図